

第1回 北部対馬地域活性化検討委員会

日時 令和6年11月8日（金）13時30分～15時45分

場所 上対馬総合センター

検討委員会委員名簿

所 属	職名・役職	氏 名
対州馬保存会	会計事務員	松村浩二
対馬観光物産協会	事務局長	西護
(株)国際ライン対馬（国際航路関係）	課長	山口正光
(株)インタープロセス（国際航路関係）	代表取締役	比田勝亨
対馬観光物産協会 上対馬部会	上対馬部会長	今村純一
国境マラソン IN 対馬実行委員会	実行委員長	平山美登
あじさい祭りパラグライディング対馬大会実行委員会	実行委員長	平山美登
上対馬漁業協同組合（海業振興モデル地区事務局）	代表理事組合長	八島康平
上対馬南漁業協同組合	代表理事組合長	神田満男
佐須奈漁業協同組合	参事	小宮通昌
上県町漁業協同組合（伊奈地区）	参事	高田清志
対馬農業協同組合 上対馬支店	支店長	米田昌隆
対馬森林組合	北部支所長	瀬崎克喜
対馬市商工会	理事	武富泰一
比田郵便局	局長	平山康人
十八親和銀行比田勝支店	支店長	大坪利晴
対馬市社会福祉協議会	理事	宮原勝美
長崎県立上対馬高等学校	校長	望月聡
教育委員会学校教育課（中学校担当）	主幹兼指導主事	阿比留喜盛
教育委員会学校教育課（小学校担当）	主幹兼主任指導主事	春田潔
対馬振興局管理部	部長	野口健一
対馬野生生物保護センター	首席自然保護官	柴原崇
上対馬振興部	部長	原田勝彦
上県行政サービスセンター	所長	田村竜一
しまづくり推進部	部長	三原立也
観光商工部	部長	阿比留忠明
農林水産部	部長	平川純也
建設部北部建設事務所	所長	山口博邦
保健部北地区保健センター	所長	須川紀子
教育委員会北地区教育事務所	所長	木寺晃三
消防本部北部支署	署長	武末幸喜
株式会社 対馬地球大学	代表取締役	高野 清華
移住定住者（島おこし協働隊OG）		庄司絵里加
上対馬振興部地域振興課	島おこし協働隊	橘田ゆかり
公募委員		築城慎一
公募委員		前野真美

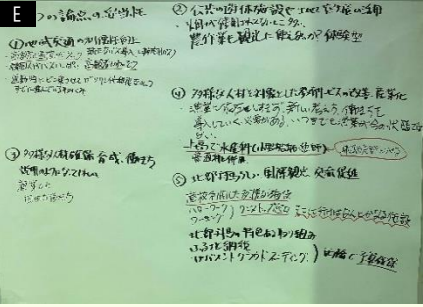
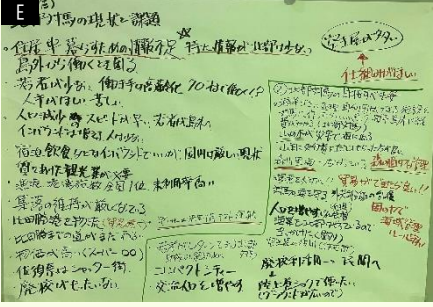
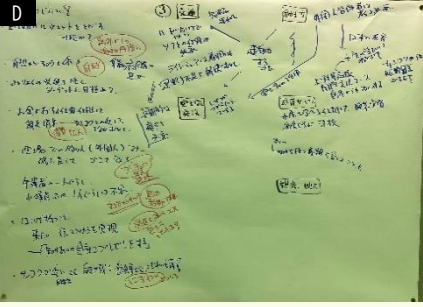
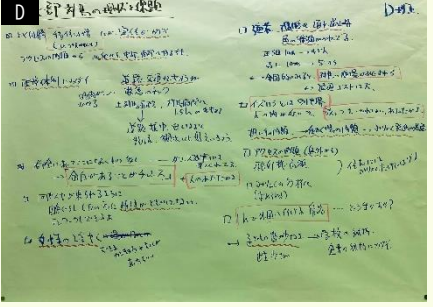
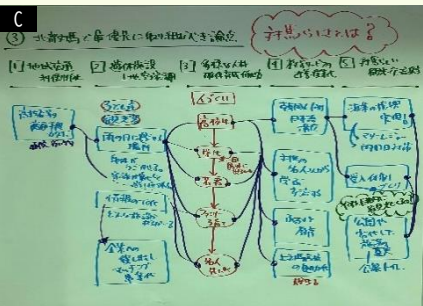
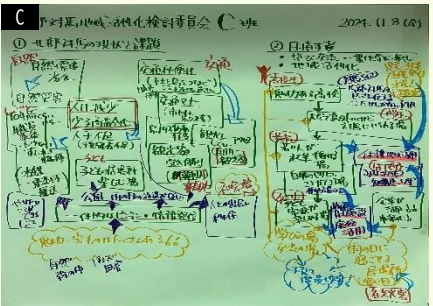
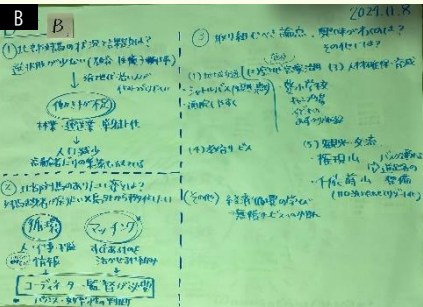
次第

1. 開会
2. 会長・副会長選出
3. 会長挨拶
4. 趣旨説明
5. 事務局からの説明とワークショップ①
・アクションプランの目的・目標・方針等
・北部対馬の現状と課題
6. 事務局からの説明とワークショップ②
・北部対馬のあるべき姿・ビジョンの設定
7. 事務局からの説明とワークショップ③
・北部対馬で最優先に取り組むべき論点
8. まとめ



ワークショップの様子

A～Eの5グループに分かれてワークショップを行いました。



A班

1 北部対馬の現状と課題

《インフラ・空き家》

- 空き家のマッチング見つからない
- 携帯の電波の速度が遅い
- 土砂災害からの復旧に時間がかかっている
- （対馬ではあまり米不足にはなっていないが）将来的に食料の確保が心配

《子ども・遊び》

- 子育て層の意見を取り入れてほしい
- 子どもを室内で遊ばせる場所が少なく、ゲームで遊ぶことが多い
- 漁業権があるので、楽しく遊べる海辺、貝を獲る等ができる場所が欲しい
- 漁港での釣り禁止が多い。釣りができる場所を発信したい。
- 遊ぶ感覚を持ちたい。大人が一息つける場所、子どもの遊び場が重要。

《観光》

- ライトな観光はあるが、ディープな観光が不足している。ガイド人材育成が重要。
- コアなコンテンツとして山の歴史ガイドを行い、お金が落ちるようにしたい。
- 団体客のコントロールを考える必要がある。バスガイドが根拠のない話をしていることもあるため、何を伝えるか等も要求したい。

《担い手》

- 対馬高校の留学生（外国語を話せる人）を自身の会社で採用したいがいらない。
- 地域でやりたいことに対して、特に高齢者はどうやったら良いかが分からずに動けない。たくさん情報を渡してどのようにしたら良いかさえ教えてくれれば高齢の人でも動けるし手伝いたい。

2 北部対馬のありたい姿

《観光は量から質へ、価値観を転換》

- 量から質へ！「数」ではなく「満足度」や「愛着」を指標にしていく転換をし、地元との交流のある観光を展開したい。
- 韓国以外のお客さんにも目を向けて、世界的に注目される地域へ

《文化や集落それぞれの個性を残す》

- 文化の継承 お祭り、どんとやきが出来なくなっている。担い手が減っていくからこそ、形を変えてできないか。
- 地域性が平準化されていく不安がある。本来それぞれの集落単位で個性がある。➡個性を生かしながら残していく！

《やりたいことが対馬でできる！》

- 魅力のある仕事を見つけることができる地域
- 産業別のビジネスのパターンなど知れたら対馬での仕事がイメージしやすい。情報が欲しい。
- 住み続けられる（Uターンしやすい）地域にしたい！

3 優先的に取り組むべき論点

① 地域交通の利便性の向上	② 公共の遊休施設や土地、空き家の活用	③ 多様な人材確保・育成、働き方	④ 多様な人材を対象とした教育サービスの改善・産業化	⑤ 北部対馬らしい観光振興・交流拠点
「行きたい場所に行ける」 仕組みをつくれないか？	「使いたい人が使える」 仕組みをつくれないか？	どんな人材をどう集めて どのように活用していくか？	「対馬らしさ」等を学べる 魅力的な学校を作れないか？	国際観光・交流の拠点として 何をどう整備すべきか？
・ライドシェアで足りていないところを補い、観光客の足になること。	・学ぶ場、交流の場、働く場の充実	・一次産業に就業できる人を増やすため、生計が立てられることを示す ・一番安定して稼げる選択肢が公務員では移住者や担い手が増えない。公務員よりも民間で稼げるようにしたい。 ・対馬に住んでくれる人を地域側が離さない。応援する。 ・AIの推進には電力量が10倍必要	・対馬を好きな人をふやすためには、対馬を知ること学ぶこと、交流すること。	・

B 班

1 北部対馬の現状と課題

○教育・医療・仕事の選択肢が少ない
↓
○子育て世代・若い人が住み続けにくい
↓
○働き手が不足（林業・運送業・単身赴任）
↓
○人口減少、高齢者だけの集落も増えている

2 北部対馬のありたい姿

○対馬出身者が戻りたい×島外から移住したい
循環…人・仕事・利益・情報
マッチング…すでにあるものを活かせる仕組み } コーディネーター・監督が必要
（バランス・効率性の判断）

3 優先的に取り組むべき論点

⑥ 地域交通の利便性の向上	⑦ 公共の遊休施設や土地、空き家の活用	⑧ 多様な人材確保・育成、働き方	⑨ 多様な人材を対象とした教育サービスの改善・産業化	⑩ 北部対馬らしい観光振興・交流拠点
「行きたい場所に行ける」 仕組みをつくれないか？	「使いたい人が使える」 仕組みをつくれないか？	どんな人材をどう集めて どのように活用していくか？	「対馬らしさ」等を学べる 魅力的な学校を作れないか？	国際観光・交流の拠点として 何をどう整備すべきか？
・シャトルバス（短距離） ・通院しやすく	・豊小学校 キャンプ場、子どもの預かり施設			・権現山、千俵蒔山→バスが通れる道路の 整備（井口浜と合わせてリゾート化）

C班

1 北部対馬の現状と課題

<<人口減少・少子高齢化>>
○北部対馬地域の人口減少及び少子高齢化に伴い、あらゆるところで人手不足（後継者不足）の課題が生じている。以下は、人口減少によって起きている課題等を上げている。

<<自然>>
○山や畑（里山）、海も同様に自然環境を維持管理できる人手が少なくなり、自然環境が劣化、さらには自然災害のリスクが高まっている。

<<交通>>
○島内の移動手段が脆弱。車に乗らない高齢者等にとって生活が不便な状況になっている。
○レンタカーを利用できない国内観光客にとって、公共交通機関で北部対馬に行くのは非常にハードルが高い。国内観光客の誘客が課題。
国内観光客の交通利便性向上にあたっては、ジェットfoilで本土と北部対馬を結ぶよう推進されたい。
○国際船ターミナルの立地から韓国人等外国人観光客が多く、公共交通の利用に関しては強みであるものの、韓国人の受入体制が課題となっている。

<<仕事>>
○10年前くらいから、各職業で人手不足となっている。事務職員等も少ない状況である。
○顕著に人手不足と思われるのは水産業や建設土木、運送業である。
○働き手を募集しても入ってこない。やりたいとおもう仕事が少ない。

<<子ども>>
○子どもが楽しめる場所、居場所が少ない。公園や雨の日に滞在できる場所が欲しい。

<<情報発信>>
○上記課題が沢山あるが、一方で、北部対馬には自然や程よい田舎感など、地域の魅力や宝物は沢山あり、それらを情報発信したり、魅力を今後どうしていこうかという一体的なビジョンを持っていないのが課題。
○ビジョンを持って戦略立てた情報発信をすることができれば、北部対馬を好きになってもらい出会いや移住に繋がる可能性も期待できる。

2 北部対馬のありたい姿

「生涯一貫した学びや交流を通じた暮らしができる」

<<ライフステージに応じた学び・交流>>
①高 校 生：魅力ある高校として、北部対馬の良さを伝えたり、北部対馬でしか経験できない科目（農業・林業・水産業等）ある。地域の先輩から学び交流できる。
②大 学 生：大学で島外に出て行ってしまうが、対馬に戻れる居場所がある。
③若 者：働ける場や起業できる環境にある。自分のやりたいことができる場であり、自由な働き方暮らし方の選択肢がある。仕事や暮らしには先輩達の知恵やワザを教えてもらったり、休耕地等の活用もできるなど、地域資源を活用した暮らしが選択できる。
④ファミリー：家族ができ、子どもが楽しめる場所ができる。子どもも、地域の先輩から学び交流することで新たな北部対馬の担い手として成長する。
⑤名人先輩：①～④の世代に知恵やワザを伝授する。交流する。

<<地域資源の活用>>
○休耕地等を活用できる環境により、若者等の一次産業の関わり、学び交流を増やすことができる。
○遊休施設（廃校等）を活用し、学び交流の場になり、また、雨の日にも過ごせる居場所となりえる。子育て環境の充実に繋がる。

<<観光客等の交流>>
○上記雨の日にも過ごせる居場所により、観光客もまた、雨の日に滞在できる場所として活用が展開できる。
○休耕地や遊休施設の活用においては、島外企業等が参画・活用することで新たなビジネス・産業の創出や雇用増、さらには人口増加に寄与する。

3 優先的に取り組むべき論点

⑪ 地域交通の利便性の向上	⑫ 公共の遊休施設や土地、空き家の活用	⑬ 多様な人材確保・育成、働き方	⑭ 多様な人材を対象とした教育サービスの改善・産業化	⑮ 北部対馬らしい観光振興・交流拠点
「行きたい場所に行ける」 仕組みをつくれないか？	「使いたい人が使える」 仕組みをつくれないか？	どんな人材をどう集めて どのように活用していくか？	「対馬らしさ」等を学べる 魅力的な学校を作れないか？	国際観光・交流の拠点として 何をどう整備すべきか？
・高齢者等の交通手段の確保（特に通院や買い物の移動手段）	・雨の日に過ごせる場所づくり ⇒子どもも観光客にとっても雨の日に過ごせる場所をつくる。身体が動かせる場所であり、家族が安心して遊ばせられる場所が良い。 ・企業への遊休施設等の貸出し・マッチング事業 ⇒遊休施設や土地を活用してもらえるようどんな施設・資源があるか情報を一元化して公开发信する。	・ライフステージに応じた一貫した人づくり ⇒高校生：上対馬高校の魅力化や国際交流の取組強化 ⇒学生：対馬に戻って学び交流できる、戻ってこれる居場所づくり ⇒若者：遊休施設等の活用・マッチング、ふるさと教育、名人から学び交流できる ⇒ファミリー・子育て⇒雨の日に滞在して学び・交流の機会がある ⇒名人・先輩：後輩の若い世代に北部対馬の知恵やワザを伝承できる機会がある ※そもそも「対馬らしさ」とは何かを突き詰めることが必要	・韓国人向けの日本語講座 ・対馬の名人さんから学ぶ交流する取組 ・ふるさと教育 ・上対馬高校の魅力化	・海業振興の実現 ⇒釣り等を含むマリトレジャーの展開 ⇒雨の日対策 ・観光客受入体制づくり ⇒公園や劣化した施設の活用充実化 ⇒公衆トイレの整備改善 ※そもそも韓国人観光客が何を目的に観光に来るのか調査が必要。

D班

1 北部対馬の現状と課題

《人口流出》

- 比田勝への移住者は増加も、定住が課題である。
- 北部はアクセスの課題から、中部南部への移住もある。
- 子ども・出生数の少なさ、学校の維持・企業の維持に課題がある。

《交通の課題》

- 救急医療環境として、道路交通に課題あり（上対馬病院はあるが、対馬病院へは 1.5 時間、島外への救急搬送も課題）
- 島外からのアクセスの悪さ（飛行機も高額）
- 1 時間で海外へ行ける航路の活かし方を考える必要

《情報の少なさ》

- 若い世代、田舎暮らし希望者へ情報が届いていない
- 魅力の多様化が求められる（様々なターゲットへの訴求が必要）

《産業》

- 都会にあってここにはないものはビジネスチャンスになる（ダンス教室など）
- 漁業環境の変化による課題（温暖化による海水温上昇、出現する魚種の変化）ただし全国的にみると恵まれた漁場
- 漁業者の減少（上県漁協正組合員 100 人から 45 人、売上 10 億から 5 億）
- 各産業の担い手不足、働く場の問題、魅力発信の必要

《人間性》

- 厳原とは別世界の生活環境、文化（放っておかれないあたたかさ）
- 人の温かさは価値
- 女性の活躍できる環境や文化がほしい

2 北部対馬のありたい姿

《島外からの来訪円滑化》

- 比田勝にジェットフォイルの就航を求める

《島内の移動改善》

- 小集落での高齢者の一人暮らしが不安

《自然環境の保全》

《魅力情報の発信》

- ターゲットを見極めて発信
- 地域に誇りを持つこと、行きたい・行ってみようを実現させる
- 島外の知り合いの会社などで対馬のプレゼンをしたらいい

《消費拡大》

- お金が落ちる仕組みづくり
- 韓国との近さを活かす方策
- 飲食店の賑わいもあることを活かす・さらににぎわいをつくる

《ゴミ問題の解決》

- 漁港、磯場の釣りゴミ問題

3 優先的に取り組むべき論点

⑯ 地域交通の利便性の向上	⑰ 公共の遊休施設や土地、空き家の活用	⑱ 多様な人材確保・育成、働き方	⑲ 多様な人材を対象とした教育サービスの改善・産業化	⑳ 北部対馬らしい観光振興・交流拠点
「行きたい場所に行ける」 仕組みをつくれないか？	「使いたい人が使える」 仕組みをつくれないか？	どんな人材をどう集めて どのように活用していくか？	「対馬らしさ」等を学べる 魅力的な学校を作れないか？	国際観光・交流の拠点として 何をどう整備すべきか？
・ハード（道路整備）だけではないソフト の仕組み（ライドシェアなど）も必要 ・ライドシェアは雇用創出につなげられる ・運転手不足の解消の方策としても良し ・長期的な視点	・空き家が使えたらできることはある	・外国人労働者の確保は考える必要があ り。	・上対馬高校での国際交流コースで島外か らの学生誘致、韓国からも短期留学できたら いい ・水産を学べる仕組みを検討 ・和食を学ぶ学校をつくる ・対馬で楽しめる趣味を持つ親を育てること も	

E 班

1 北部対馬の現状と課題

- 住居、車、暮らすための情報不足。特に情報が北部は少ない。島外から働くとき困る。
- 空き家が多い ←仕組みがほしい
- 若者が少ない、働き手の高齢化、70 才まで働く！？ 人手がほしい、苦しい
- 人口減少のスピードが速い、若者が島外へ
- インバウンドは増える、人は少ない
- 宿泊、飲食などはインバウンドでいいが、国内は厳しい現状。質を上げた観光業が必要。
- 漁港、港湾施設全国１位 未利用率高い
- 集落の維持が厳しくなっている
- 比田勝港を物流（貿易港へ）→早ければ来年１月テスト運航
- 比田勝までの道がまだ悪い
- 物価が高い（スーパー）
- 佐須奈はシャッター街
- 廃校がもったいない

2 北部対馬のありたい姿

- 海洋ゴミの処理、再利用ができる施設を対馬に作っただけいいと思う。毎年島外に出すのに経費がかかる（北部対馬）
- 山の本が災害で海に出る。山主に処分費を出してもらった方が良い。
- 森川里海がつながっている 森の適切な管理
- 環境を大切に！！貿易ができれば良い！！
- 対馬の海を守る 外来船舶（他県）の乱獲 国の力で海域管理ルール守れ！
- 人口を増やす（社会増）
- 北部は海業をやっているのできっかけに（釣り）
- 空き家の活用（住む所）
- 若者がリターンできる北部対馬 戻るために助成してほしい
- コンパクトシティー
- 交流人口を増やす
- 廃校利活用→民間へ
- ↓
- グラウンドが広いので陸上養殖で使いたい

3 優先的に取り組むべき論点

21 地域交通の利便性の向上	22 公共の遊休施設や土地、空き家の活用	23 多様な人材確保・育成、働き方	24 多様な人材を対象とした教育サービスの改善・産業化	25 北部対馬らしい観光振興・交流拠点
「行きたい場所に行ける」 仕組みをつくれないか？	「使いたい人が使える」 仕組みをつくれないか？	どんな人材をどう集めて どのように活用していくか？	「対馬らしさ」等を学べる 魅力的な学校を作れないか？	国際観光・交流の拠点として 何をどう整備すべきか？
・高齢者の通院がネック ・新たなバス導入（病院用バス） ・韓国人がバスいっぱい、高齢者かわいそう ・通勤時に便乗させてガソリン代程度支払う、すでに進んでいる取組	・畑が使用されていないとこ多い ・農作業も観光に使えないか？体験型	・兼業OK 自由な働き方	・漁業に依存しすぎず、新しい考え方、働き方を導入していく必要がある。いつまでも漁業が今の状態ではない。 ・上対馬高校で水産科（小型船舶漁師）普通科と併用←船舶免許を取らせる	・廃校利用した多様な施設 ・ハローワーク、ワーキング→ワンストップ窓口、そこに行けばなんとかなる施設 ・北部対馬の特色ある取り組みに対して、ふるさと納税とガバメントクラウドファンディングの両輪で予算確保